

第3章 二酸化炭素の削減目標



「風車のみえる丘」(古賀の魅力再発見コンテスト)

第3章 二酸化炭素の削減目標

二酸化炭素削減目標	
＜総排出量削減目標＞	
●平成 35（2023）年度における二酸化炭素総排出量を基準年度（平成 10（1990）年度）より 5%の増加に止め、現況年度（平成 21（2009）年度）より 3%削減する。	
＜部門における削減目標＞	
●産業部門	
→ 出荷額 1 億円あたりの排出量を現況年度（平成 21（2009）年度）より 0.2%削減	
●民生家庭部門	
→ 1 世帯あたりの排出量を現況年度（平成 21（2009）年度）より 26.5%削減	
●民生業務部門	
→ 1 事業所あたりの排出量を現況年度（平成 21（2009）年度）より 2.4%削減	
●運輸部門	
→ 1 台あたりの排出量を現況年度（平成 21（2009）年度）より 19.6%削減	

上記目標を達成するには、各部門における原単位を現状固定して将来推計した平成 35（2023）年度（目標年度：現状趨勢）における総排出量 419 千 t-CO₂ から、各種対策を実施することで 33 千 t-CO₂ の削減が必要となります。これは平成 21（2009）年度（現況年度）比 3%の削減に相当します。

なお目標数値は、平成 24 年度に実施したアンケート調査における市民・事業者のソフト的な取り組み、施設導入などのハード的な施策の追加実施意向率をもとに定量的に積算した数値に基づいています。

実現可能な取り組みを最大限取り入れることを目標に計画に取り組む必要があります。

表 2-4 部門別対策による二酸化炭素削減量の見込み

部門		内容	対策効果量（千t-CO ₂ ）	
				部門別小計
民生部門	家庭系	日常生活における省エネルギー行動の実践	1.4	13.7
		待機時消費電力の削減	0.5	
		高効率なエネルギー機器の導入	2.1	
		太陽光発電の導入	6.5	
		太陽熱温水器の導入	0.3	
		トップランナー機器の導入	2.8	
		住宅の断熱化	0.0	
	業務系	日常業務における省エネルギー行動の実践	0.2	1.9
		太陽光発電の導入（事業所）	1.4	
		トップランナー機器の導入	0.0	
高効率なエネルギー利用機器の普及		0.2		
産業部門	製造業	太陽光発電の導入（工場）	0.3	0.3
運輸部門	自動車	マイカーから公共交通への利用転換の促進	1.6	17.8
		エコドライブの促進	1.5	
		貨物車のエコドライブ、貨物輸送の効率化の促進	1.6	
		低燃費、低公害車の導入	13.0	
※数値は端数処理の関係で合計が合わない箇所がある。			総計	33.3

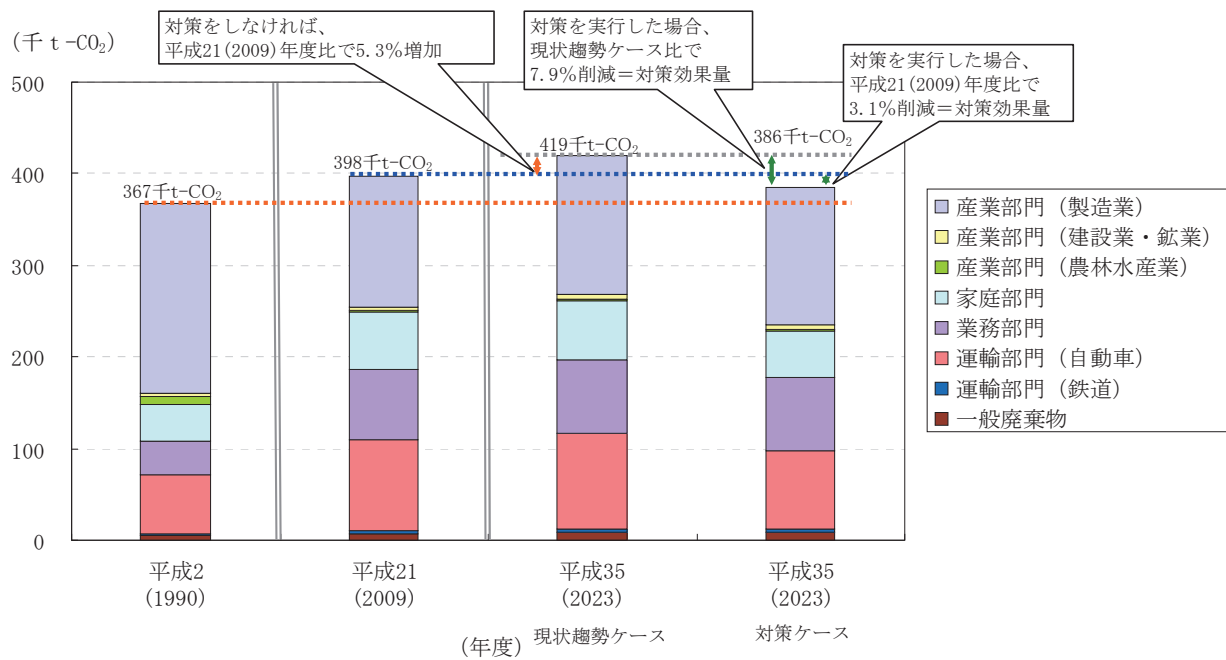


図 2-22 対策ケースの推計結果

表 2-5 各年度における総排出量及び排出原単位

	平成2（1990）年度		平成21（2009）年度		平成35（2023）年度 （現状趨勢ケース）		平成35（2023）年度（目標ケース）		
	総排出量 （t/年）	排出原単位 （t/フレーム）	総排出量 （t/年）	排出原単位 （t/フレーム）	総排出量 （t/年）	排出原単位 （t/フレーム）	総排出量 （t/年）	排出原単位 （t/フレーム）	削減率（%）
民生家庭部門	40,315	2.9	62,041	2.8	65,320	2.8	51,656	2.2	26.5
民生業務部門	37,040	22.9	76,363	36.7	80,399	36.7	78,518	35.8	2.4
産業部門	219,024	97.0	149,322	75.1	157,214	75.1	156,962	75.0	0.2
運輸部門	66,252	3.1	102,743	2.7	108,174	2.7	90,424	2.3	19.6
一般廃棄物	4,000	—	8,000	—	8,000	—	8,000	—	—
総排出量	366,631	125.9	398,468	117.3	419,108	117.3	385,559	115.3	—

※平成21（2009）年度（現況年度）比で示す。

